

多言語話者 ナー ज्याの発見

キリーロバ・ナー ज्या

(クリエイティブ・ディレクター)

両親の転勤により世界6カ国、
4つの言語で教育を受けて育ったキリーロバ・ナー ज्या。
現在、広告代理店に勤務し、多言語で
コピーライティングをする彼女に、多言語話者とは、
母語とは、また異なる言語による思考について話を聞いた。



——多言語話者であるナー ज्याさんは、現在、何カ国語が話せるのでしょうか？

会話が出来る言語は、ロシア語と日本語、英語、フランス語、イタリア語です。なかでもよく使うのは、日本語とロシア語、英語ですね。フランス語はフランスとカナダ・モントリオールに住んでいたときに話していましたが、今はあまり使っていないので、思い出しながら話す感じです。

大学時代に初めて「言語を勉強するという体験」を試みてみたのがイタリア語。それまでは、言語を「勉強する」という感覚がどんなものかわからなかったんですよ。やってみると、語学学習はなかなか大変ですね。イタリア語は、旅行して美味しいご飯に困らない程度に話せるようになりました(笑)。

日本語の「ボール」と英語の「ball」が 同じ意味だと気づかなかった

——ちなみにどの言語が母語(第一言語)になりますか？

そもそも「母語って何だろう」みたいな感覚なんです。ロシア語は、自分が生まれて最初に覚えた言語ですけど、今は「家庭内言語」で。

わう特有のものなのでしょう。実は私、日本語の「ボール」と英語の「ball」が同じ意味だと頭の中で紐づいた時期は、かなり遅かったんです。それこそ、小学校高学年ぐらいまでわからなくて。

——それぞれの言語で同じ言葉があることに気がついたのが、ずいぶん後だったんですね。

「ボール」は英語では「ball」だと、頭の中の意味が繋がらないまま、パラレルな四つの言語世界を生きていました。それぞれの意味がリンクし始めたのは、文法などの言語の仕組みがある程度わかったうえで話せるようになってからなんです。それまでは、一語一句を対比させるのではなく、「こういう内容」と要約のように訳していたんです。

なかでもカタカナ英語は難しく、日本語の「ボール」と英語の「ball」では発音もまったく違う。まさか日本の人が英語由来の言葉を話していると思わなかったんで、ずっと「ボール」は日本語だと思っていたんですよ。

——それでも現地校に通っていらして、その日に学校であったことをご両親に説明するわけですよ。そのときは、ロシア語でどのように説明されるんですか？

学校であった出来事をそのままロシア語に訳

私の場合、今はロシア人に会っても、無意識に英語で話してしまうことが多い。というのも、ロシア語圏から離れて、もう三〇年経つんですね。だから、知らない人とロシア語を喋る機会がほとんどないんです。さらに、言語は生き物だから、どんどん変化する。ロシアは九〇年代以降昔はなかったカタカナ英語みたいな言葉がたくさん増えたし、私の知っているロシア語のギャグは九〇年代で止まっている(笑)。新しく生まれた言葉を私は使わないから、「ちょっと不思議なロシア語を話す人」になっているかも。

日本語はロシア語と逆で、学校や会社など、家の外で話すことが多い言語です。逆に家族で話すような日本語の使い方をできていない。英語は子どもの頃に学んだ後、今ではビジネスや友だちの間で使う言葉です。

日常の中で使う場面が、それぞれの言語で棲み分けされているため、正直どの言語が母語で一番喋れるのかというのは、自分でもよくわからないんです。時間と共に変化しているかもしれないですね。

——すると、夢も多言語で見えるのですか？

夢は完全に登場人物によります。両親が出てきたらロシア語、会社のシーンなら日本語、海外の友人が出てきたら英語かその国の言葉です。

して話してしまうと、両親に学校の情景が伝わらないんです。物事には必ず背景があつて、それぞれの言語で言葉の使われる常識が違う。常識を前提に話さないと、本当の意味で何が言いたいのかは通じない。だから、私は出来事が起こった背景から話し始めるようにしています。

多言語に触れる環境であれば、 軸になるものが必要

——二言語を使用する環境にあつても、両言語ともに年相応のレベルに達していない「ダブルリミテッド」について、ナー ज्याさんが思うところはどんなことですか？

おそらくなんですけど、子どもたちに「二言語」を操っている感覚はあまりないと思うんですよ。自分が置かれている二つの環境で意思疎通ができるように語彙力を広げているというか、子どもにしてみれば、場面に応じて一番適した言葉を選んでくれるだけ過ぎないのかもしれない。

英語と日本語でダブルリミテッドを抱えるお子さんは、日本語しか話さない他の子どもとほぼ同じ総量の言葉を知っています。ただ、日本

——とっさにメモを取るときは？

それも耳で聞いた言語でメモします。相手が英語で話していたら英語、日本語を話していたら日本語です。

というのも、別の言語で訳してしまうと、元の意味と微妙に変わってしまつて、余計に面倒なんです。訳さないほうが、後々メモを使うときに通じやすいし、ラクです。子どもの頃も、先生が喋った言葉でメモをしないと授業にも追いつかなかったですし、テストの解答も訳していたら時間内に終わらない。だから聞いた言葉でメモをする習慣がついているんです。

それもこれも、私が小学一年生というまだ「この言語が学びのベース」というのが定まっていないうちに、各国への転校を始めたので、学びのベースとなる言語に頼れなかったから起きたことだと思います。逆に母語と言うべき「学びのベースとなる言語」が強くて、母語から言葉を置き換えて学んでいたとしたら、たとえ新しい言語で話していたとしても、頭は母語のままになっていることが多いかもしれません。

語彙力が足りなくてうまく伝えられないというよりはありました。でも、言語が訳せない気持ち悪さは、おそらく大人になってから別の言語を学ぶ人とか、ひとつの言語の得意な人が味